

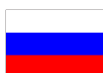
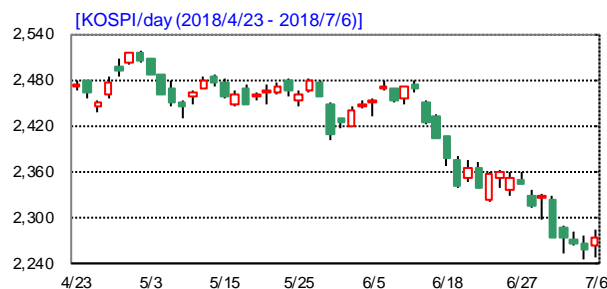


【韓国】 総合指数は週間で2.3%安と4週続落、今週も米中通商問題の動向に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.3%安と4週続落。米中通商問題の深刻化を警戒する売りが優勢な展開だった。指数は週初2日に大きく反落してスタート。3日に小反発したものの、4-5日は再び下落し、連日で17年5月4日以来、1年2カ月ぶりの安値を更新した。米中貿易摩擦への警戒のほか、北朝鮮の非核化への意思に疑義が浮上したとのメディア報道などで投資家心理が悪化した。6日は米国による対中追加関税の発動が伝わる一方で、中国本土・香港などアジア株が上昇したことを受けて韓国でも買い戻しが入った。今週は安値圏での買い戻しが入りやすい状況にあるものの、トランプ米政権の追加関税発動後の動向をにらんだ神経質な展開か。国内では11日に失業率やマネーサプライ、13日に輸出入物価指数が発表される。

▼指数チャート

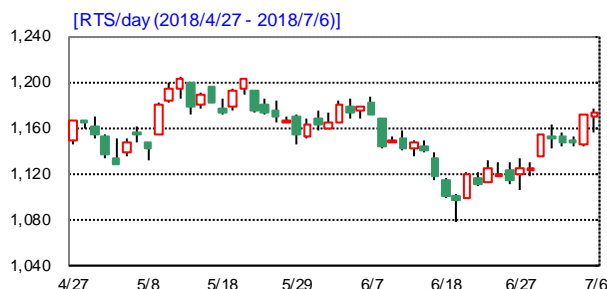


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.7%高と3週続伸、今週はリスクオフが後退か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.7%高と3週続伸。週前半は軟調に推移したが、OPECの原油増産決定を受けたロシアの石油会社の増産計画発表や欧州株の上昇で5日に大幅高となった。指数は前週までの続伸や米国による対中制裁関税第1弾の発動を控え、週初は小幅に続落したものの、5日に前日比2.1%高と大幅に上昇した。OPECとロシアが原油増産で合意したことを受け、石油大手のルクオイルは日量2万6000バレルの増産を決定。増産が業績の改善に結びつくとの期待でルクオイルが前日比2.9%高となったほか、そのほかのエネルギー関連株が軒並み高となった。また、米国とEUが自動車への関税発動を回避するとの期待感も投資家心理の改善につながった。今週はリスクオフの流れの後退を背景に堅調続伸か。

▼指数チャート



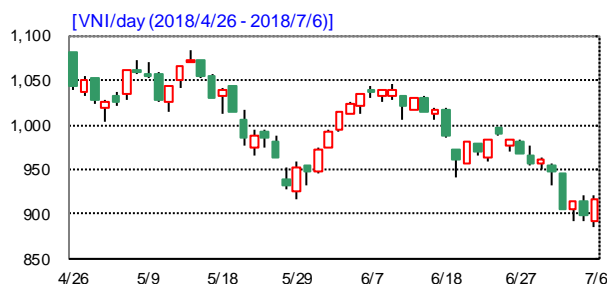
【ベトナム】 ベトナム指数は4.5%安と大幅に4週続落、今週も資金流出懸念が重

しか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で4.5%安と大幅に4週続落。通貨安を背景に資金流出懸念が重しとなった。指数は週明け2日に1.4%安でスタートすると、3日も4.3%安と大幅続落。通貨ドンが対ドルで安値更新を続けたことで売り優勢の展開となった。4日には一時900ポイントを割り込み、昨年11月20日以来の水準まで下落。6日はアジア市場全般が上昇した流れを受けてVN指数も前日比2.0%高の917.51ポイントと反発したが、週間ベースでは5月下旬につけたそれまでの年初来安値916.00ポイントを更新して取引を終えた。個別では2桁安となったベトナム投資開発銀行やペトロベトナム・ガスを筆頭にエネルギー、金融株が軒並み売られた。今週はテクニカル面の悪化に加え、通貨安を背景に資金流出懸念が引き続き重しとなるか。

▼指数チャート

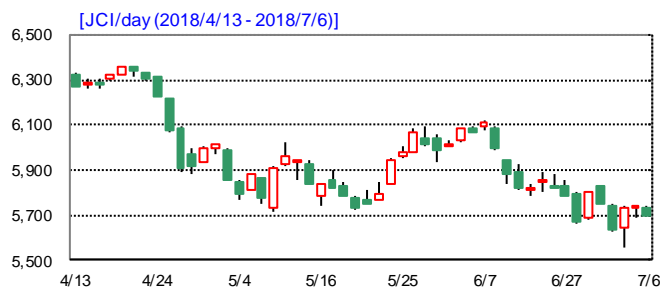


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.8%安、米中の貿易摩擦激化に警戒感

ジャカルタ総合指数は週間で 1.8%安と 3 週続落。週を通じて不安定な値動きが続いた。週初の 2 日は、6 月の CPI 上昇率が前年同月比 3.1%と中央銀行の目標レンジ内に収まったものの買い材料にならず、指数は反落。3 日は米中の貿易摩擦激化が嫌気されて、終値で前日比 2.0%安と 17 年 5 月以来の安値を更新した。一方、4 日は前日にムルヤニ財務相が通貨防衛を目的とする経常赤字の抑制策を検討していると発言したことが好感されて 1.8%高と反発。5 日も続伸したが、6 日は節目の 5700 ポイントを割り込んで取引を終えた。今週は 11 日に 5 月の小売売上高が発表される予定で市場予想を上回れば好材料。

▼指数チャート

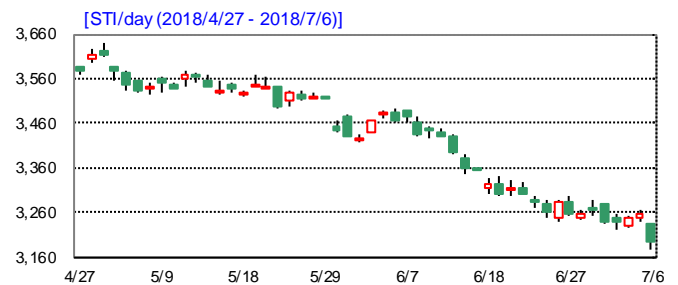


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.4%安、住宅購入時の印紙税引き上げで不動産株が急落

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.4%安と 4 週続落。週末の大幅反落が響いた。週初の 2 日は、前週末に発表された中国の 6 月の公式製造業 PMI と 2 日発表の財新製造業 PMI がともに前月を下回ったことが嫌気されて反落。3 日は前日の取引終了後に発表されたシンガポールの 6 月の製造業 PMI が 52.5 と前月からわずかに下振れたことで続落した。その後は 4-5 日に続伸したが、6 日は前日に金融通貨庁が住宅購入に課される印紙税の大幅引き上げを発表したことで不動産株が急落し、指数は前日比 2.0%下落して引けた。今週は 12 日に 5 月の小売売上高、13 日に 4-6 月期の GDP 速報値が発表される予定。

▼指数チャート

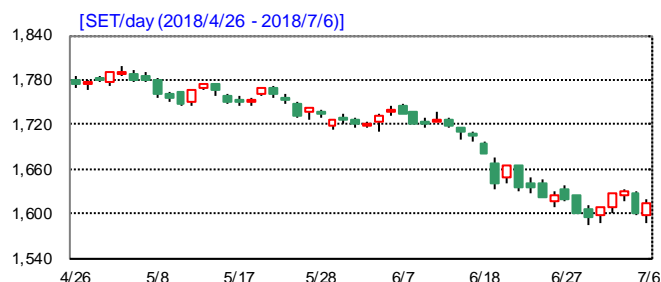


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.2%高、今週も原油相場の動向に左右される展開か

SET 指数は週間で 1.2%高と 4 週ぶりに反発。近隣諸国の指数が米中の貿易摩擦激化を受けて低迷する中、おおむね堅調に推移した。週初の 2 日は、前週末にトランプ米大統領がサウジアラビアに対し原油増産を要請したことに伴う価格下落を受けてエネルギー株が売られたものの、タイ空港公社などが買われ、指数は終値で 4 営業日ぶりに反発。4 日まで 3 日続伸したが、5 日はトランプ大統領が OPEC に原油価格の引き下げを要求したことが嫌気されて前日比 1.7%安と反落した。ただ、6 日には反動で買い戻されて引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、引き続き原油相場の動向に左右される展開か。

▼指数チャート

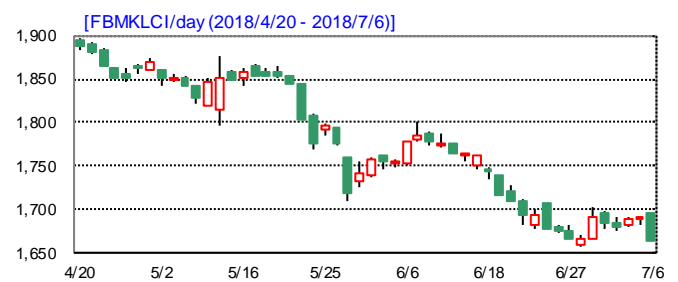


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.6%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

クアラルンプール総合指数は週間で 1.6%安と 4 週続落。週末の下落が痛手だった。週前半は前週末に上昇した反動で軟調だったが、4 日に買い戻されると 5 日も続伸。5 日に発表された 5 月の輸出額はパーム油の需要低下を受けて前年同月比 3.4%増と市場予想を下回ったが、指数への影響は軽微だった。一方、6 日は米中が相互に追加関税を発動したことが嫌気されて、指数は前日比 1.6%安と 3 日ぶりに反落した。今週は 11 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、12 日には 5 月の鉱工業生産と小売売上高が発表される予定。外部要因では、13 日発表の中国の 6 月の貿易統計が意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。